



<研究主題>

児童生徒が自分で考え、もっと学びたくなる授業づくり

～学びの過程、内面の育ちに着目した授業研究～

7月に行われた各学部の公開研事前授業について、それぞれの授業研究会で話題になったことを紹介します。公開授業に向けて、改善点や指導助言を活かした授業づくりに取り組んでいきたいと思ひます。

## 【小学部】

<協議テーマ>

### 遊びの楽しさや、隠れるおもしろさが分かって友達と遊ぶ姿

★単元名★

小学部1・2年 遊びの指導 「なかよしランド」で遊ぼう！

～おおかみからかくれよう～①

★授業説明★

- ・児童たちは、遊びの経験や興味・関心の幅などそれぞれ課題がある。町をイメージした「なかよしランド」で様々なコーナーを設定することで、好きな遊びを見つけたり興味・関心を広げたりできるのでは？
- ・自由遊びでは、友達同士の関わりを広げるために「児童同士をつなげること」を意識した働き掛けを行った。
- ・課題遊びでは「おおかみから隠れるため」に、導入や教材、ストーリーについて話し合いを元に工夫を積み重ねている。



★協議から★

- ・自由遊びのなかの感覚遊びとごっこ遊びのバランス
- ・課題遊びの場のセッティングの仕方や時間短縮の工夫
- ・もっとドキドキ感やスリルを味わうためのストーリー性の変容



<指導助言> 秋田県総合教育センター 指導主事 牧野 幸枝 氏

○「なかよしランドでの自由遊び」

- ・内容は同じでも、その時々の子どもの様子で偶発的に広がりや変化がでるのが遊び。教師はねらいを意識しつつそれに対応しなければならない。そこが遊びの指導の難しさであり面白さである。
- ・ごっこ遊びでは教師が遊びを広げ、子ども同士をつなげる手助けを。遊びに意味付けをしたり、共有させたりすることが教師の大事な役割になる。
- ・「レストラン」「病院」など何かテーマをもった設定で遊べる子もいるのでは？

○「おおかみ登場・逃げる（課題あそび）」

- ・子どもたちがトンネルに隠れているとき目がきらきらして、「楽しい」気持ちが表れていた。反面、回数を重ね、遊びが「パターン」で進んでしまった印象もある。大きい流れは変えずに少しの変化を加えていくことが、子どものわくわく感につながるのではないか。
- ・「逃げる」必要感やおおかみから逃げ切るといった目的意識がはっきりしていると良い。

○「単元・題材の構成」について

- ・教科と合わせた指導とのつながりとして、例えば、国語の時間に「貸して」「どうぞ」等遊びの中で使ってほしい言葉を盛り込む、おおかみの文字のなぞり書きをする等、なかよしランドに関連する内容が設定されているということがあっても面白い。

## 【中学部】

<協議テーマ>

自分で気付き、考えて行動する姿を引き出すための教師の支援はどうあればよいか

### ★単元名★

中学部1年 生活単元学習 LET 'S GO! 中1 ～追分オリジナルマップを作ろう1～

### ★授業説明★

- ・学習集団を作ることポイントを置き、出掛ける体験や友達と協力してまとめる学習を繰り返し、学びとして実感してほしいと考えている。
- ・これまで繰り返してきたことで、学習の流れに見通しをもち意欲的に取り組んでいた。
- ・グループでは、役割分担して活動したが、生徒たちは教師に話し掛けることが多く、生徒同士で協力するのはまだまだ難しいと感じた。



### ★協議から★

- ・その日のテーマとなるものを探しに行くのか、写真を見て思い出して解決するのか、どちらが先か。
- ・話合いのルールづくりをしてはどうか。
- ・生徒同士の発言をつなぐ、教師の言葉掛けを。
- ・必然性のある場面設定が必要ではないか。
- ・「協力」「関わる」の具体的なお手本を示した方が良い。



<指導助言> 秋田県総合教育センター 指導主事 加藤 しおり 氏

- ・地域の小学校から進学してきた生徒が多く、一人一人が新しい環境・新しい集団にじっくり慣れようとしているところだろう。友達との協力をねらう場合であっても、一人一人の活動への満足感を保証してやるのが大切である。今回の授業では、繰り返しの活動を通して生徒が見通しを高め、期待感をもって取り組む姿が多く見られていた。
- ・集まった「発見」や「疑問」について調べる活動を次の単元で計画し、本単元では「発見」や「疑問」を集めながら街探検を重ねている。しかし、「疑問」について調べることで新しい「発見」が生まれたり、自分たちで「疑問」を解決しようとする力が育ったりすることを考えると、本単元の中で「発見」や「疑問」をどう扱うかが重要になるのではないかと。生徒の興味・関心に基づいた切り口はたくさんあり、主体的な学びが期待できる。
- ・“児童館を発見した”と発表した生徒がいた。以前の街探検で児童館の話題が出ていたことを覚えており、「見つけた！紹介したい！」という思いだったのだろう。他の生徒がその意図に気付いたり、感動を共有したりできるような、生徒同士をつなぐ働き掛けがあるといい。
- ・指導計画に記載している育成を目指す資質・能力については、各教科等との関連についても押さえてほしい。例えば、本時では、生徒が意見を出し合ったり、意見をまとめたりすることをねらっているが、学習指導要領の国語の目標や内容と照らし合わせることで、個々の段階や目指す姿、手立て等が具体的に変わってくるのではないかと。

# 【高等部】

## <協議テーマ>

生徒が自分で考え、判断して行動する姿が授業の中でどのように表れていたか

### ★単元名★

高等部3年 生活単元学習 「地域発信情報局 ファイナルステージ  
～目指せ！秋田マイスター 調査・報告編～」

### ★授業説明★

- ・昨年度から学習を重ねている単元で、『秋田の特産品を地域に発信したい』という生徒の気持ちを大切に取り組んできている。今年度は、音楽で学習した「秋田民謡」の歌詞にある秋田弁や秋田名物に生徒たちが興味・関心をもち、『秋田についてまだまだ知らないことがある、もっと調べたい』という意見や願いがあり学習を進めてきた。
- ・本時は、「秋田弁」「秋田落」「秋田美人」の3つのグループに分かれ、それぞれ生徒たちが調べたことを報告する報告会に向けて伝わる発表になるための話し合いをした。提示授業は「秋田弁」グループで、前回撮影した動画を見ながら5つのポイントについて「良い点」「改善点」について意見を出し合った。
- ・生徒たちが自分の考えを記入し整理する時間を設け自信をもって意見を話すことができるよう付箋紙を使用した。生徒たちからたくさん意見が出たが、付箋紙の意見を整理しまとめきれなかった。

### ★協議から★

- ・DoではなくHowの目標を
  - ・教師のねらい、願いの焦点化  
秋田弁の良さ（おもしろさ）を見える所に  
目標、ゴールのイメージを共有
- ・自己評価と他者評価をすりあわせ  
改善点をすぐやってみる→そして再び評価
- ・生徒が安心できるしかけ  
授業の見通し、タイムスケジュール 板書（付箋紙、台紙）、簡潔な掲示



## <指導助言> 秋田県総合教育センター 主任指導主事 北島 英樹 氏

### ○「目標設定」

- ・レッツ型（Do）～「〇〇を考えよう」→「…考えました」
- ・クエスチョン型（How）～「〇〇するためにはどうしたらよいだろうか」→課題意識が出てくる「もっと〇〇すればよかった」解決に向けた答えをもって授業を終えることができる。答えをもてなかった生徒も振り返りができる。

### ○「個人のよさ、集団のよさを生かした授業づくり ～個人差を生かす授業～」

- ・教師は、生徒のかかわる場面を作り出す、かかわりをつなぐ役割を。生徒同士の学び合い、高め合いがあって、一人一人の内面の成長につながる。
- ・一人一人の役割、グループのみんなが協力して達成する目標の共有、目的や目標が明確に一人一人にしっかりと伝わっているということが大前提としてある必要がある。
- ・教師がリードし生徒の意見を拾い上げていたが、生徒の役割（記録係や書記等）をもっと生かしても良かったのではないかな。

### ○「よりよい話し合い～まとめ、振り返り」

- ・付箋紙（生徒の意見）や台紙の使い方、整理の仕方を工夫し、生徒たちの思考の流れが見てわかる板書になると、もっとよくなったと思う。

### ○「内面の育ちの捉え、難しさ」

- ・繰り返しの積み重ねの中での生徒たちの取組の様子の変化＝生徒たちの内面の動きと捉えることができるのではないかな。
- ・我々教師の子どもを見る目の専門性が問われる。何を内面とするのか、見取り方についてセンスを磨かなければならない。
- ・Ex.) 対象（気になる）生徒の内面について、学部職員でそれぞれの見立てを出し合ってみる、互いの見取り方やその違いを認識し合ってみることで研究主題に迫ることができるのではないかな。